

地方創生加速化交付金事業評価シート

1.基本項目

事業名		SHITANOYAブランドエリア構想事業					
総合戦略の位置付け	基本目標	まちを楽しみ、まちの良さを高める		所管課名	秘書広報課、産業振興課、社会教育課		
	施策	いいね！と評価できる魅力づくりと情報発信		実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他		
事業目的		<p>「下野谷遺跡」は、西東京市の地域資源であり、平成27年に国史跡に指定された貴重な文化遺産である。都心に最も近い縄文探訪エリアである「下野谷遺跡」を、周辺地域と連携させた地域活性化事業として、下野谷遺跡のプロモーション及び市内外からの交流人口の増加を目的とし実施する。</p> <p>下野谷遺跡周辺地域における地域活性化事業によって、自らが住むまちの歴史や文化財の魅力を再認識する機会とし、地元意識の醸成を図るとともに、下野谷遺跡のさらなる注目度の向上により新たな集客や地域産業の活性化に繋げる。</p>					
事業内容実施方法		<p>(1) 【西武鉄道車内広告事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○西武新宿線及び池袋線の車両に、中づり広告を掲出し、下野谷遺跡のPRを図る。</li> <li>・実施時期：8/29～9/11、11/17～11/30、2/20～3/5</li> <li>・掲出期間：14日間（1サイクル）×3回</li> <li>・広告形状：B3（縦364mm×横515mm）×2種、B3ワイド（縦364mm×横1,030mm）×1種</li> <li>・印刷枚数：7,560枚×3回 合計22,680枚</li> </ul> <p>(2) 【下野谷遺跡関連ホームページ作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人旅行者や市内外の在住外国人向けに、自国語でのWEB検索に対応した内容のホームページコンテンツを追加作成</li> <li>・下野谷遺跡の紹介を中心に、本市の地域資源を紹介</li> <li>・4言語対応（英語・韓国語・簡体字中国語・繁体字中国語）</li> </ul> <p>(3) 【西東京市ガイド作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人旅行者向けのガイドブックを作成</li> <li>・4言語対応（英語・韓国語・簡体字中国語・繁体字中国語）</li> <li>・和をモチーフ（和柄・四季写真）・ミウラ折り・QRコードで市ホームページと連動</li> <li>・東京観光情報センター5か所に設置（都庁・バスタ新宿・羽田空港・京成上野駅・エキュート立川）</li> </ul> <p>(4) 【回遊型イベント事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○JOMON QUEST</li> <li>・下野谷遺跡に関するクイズ等を各ポイント（7つ）でクリアし、下野谷遺跡公園にゴールするルートで「まちあるき」イベントを実施。</li> <li>・地元商店会及びスポーツクラブと連携（スタッフ配置・飲食物等の販売）</li> <li>・下野谷遺跡公園での「縄文の森の秋祭り」と連携し、事業効果を向上させた。</li> <li>○イベントの周知</li> <li>・下野谷遺跡をPRするチラシの作成（1,000枚）及び配布</li> <li>・YouTubeの西東京市動画チャンネルでPR動画を公開</li> <li>○イベント啓発グッズの作成</li> <li>・イベント参加者に配布するグッズを作成</li> <li>・市内産農産物等の提供</li> </ul> <p>(5) 【下野谷遺跡デジタルコンテンツの制作】</p> <p>タブレット端末を利用した下野谷遺跡に関連する高精細CG等を制作。当時の生活を復元した映像、画像、音声等により可視化させ、解説を加えることにより、遺跡の価値と魅力を分かりやすく伝える。また、市内外を問わずより多くの方々にデジタルコンテンツを利用していただくため、スマートフォン用アプリを制作した。なお、訪日外国人向けに多言語（日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語）対応とした。</p> <p>(6) 【下野谷遺跡活用事業】</p> <p>下野谷遺跡周辺地域と連携した地域活性化事業として、地元商店（東伏見駅・西武柳沢駅周辺）による下野谷遺跡関連商品の開発・販売を行った。（下野谷遺跡キャラクター「しーた」「のーや」や縄文時代の生活・出土品等に関連するものを作製）実際の開発・販売などは個々の商店が行い、市は開発のための情報提供や商品のPRなど側面的な支援を行った。</p>					
事業費 (単位:千円)			平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
		事業費	53,204				
		財源内訳	交付金	53,204			
			地方債				
			その他				
一般財源							

地方創生加速化交付金事業評価シート

2.重要業績評価指標

評価指標名	評価指標値	実績値
1 東伏見駅・西武柳沢駅を利用して、本市に訪れる人の数（2駅の乗降客数）	乗降客数100,000人／年増（平成26年度比）	377,775人
評価指標の考え方	市内には5つの駅があり、鉄道は他の公共交通機関と比べて年間利用客数が多い。そのため、市内外へ向けた魅力発信事業による効果を測る指標として、下野谷遺跡の最寄り駅である2駅の乗降客数の100,000人増加（年間）を評価指標とした。	
評価指標名	評価指標値	実績値
2 下野谷関連商品の開発数	3商品	5商品
評価指標の考え方	まちの魅力を伝えるには共感いただける人を増やすことが重要である。そのため、普及啓発による効果を期待し、魅力を伝える手段となる商品の開発数を評価指標とした。	
評価指標名	評価指標値	実績値
3 下野谷関連商品の販売数	3商品	5商品
評価指標の考え方	まちの魅力を伝えるには共感いただける人を増やすことが重要である。そのため、普及啓発による効果を期待し、魅力を伝える手段となる商品の販売数を評価指標とした。	

3.評価

検証項目	ランク	評価	評価説明・判断理由
A 事業の優先度	2	<input checked="" type="checkbox"/> 事業が効果的であったことから取り組みの追加等、更に発展させる  <input type="checkbox"/> 事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った)	<b>【事業の優先度】</b> 平成27年に国史跡に指定されたが現時点で具体的な成果が見られない中、“地域資源”としての活用について総合戦略に位置付け地域創生加速化交付金を活用する事業としては優先度が高い。 <b>【事業の必要性】</b> 本取組は、埋蔵文化財である下野谷遺跡を可視化するものであり、学校教育・生涯学習への活用ができる。鉄道車内広告とHP作成と回遊型イベント事業は広く一般への普及・啓発、地域活性化に資するサービスである。 <b>【実施主体の妥当性】</b> 地域に存在する遺跡の価値や魅力を普及・啓発するための取組であり、当面は市が実施するものとする。商品開発は地域の各店舗が実施し、市はPRなどの側面支援とした。イベントについては、地域団体や商店会との連携により実施した。 <b>【直接のサービスの相手方】</b> すべての市民が対象となる。 <b>【事業内容の適切さ】</b> 先行型事業において実施した内容を踏まえ、車内広告の掲載方法や掲出時期などについて事業内容の見直しを図っている。 <b>【受益者負担の適切さ】</b> 本事業は、国の交付金を活用した事業として実施しており、100%市が負担すべきである。 <b>【市民ニーズの把握】</b> 文化財保存・活用計画策定時の市民意識調査、各種イベント実施時のアンケート、地元商店会等との調整等によりニーズの把握を行っている。 <b>【事業の効果】</b> 全体的には市内外からイベント等への新規参加者などが見られ、市のPR効果は大きかったと考える。今後も継続した取組みによる効果を期待するものである。 <b>【成果指標の適切さ】</b> 地域活性化という面からは妥当な指標であると考えられる。 <b>【計画に対する貢献度】</b> 貢献度は極めて高い事業と判断する。
A 事業の必要性	2		
事業主体の妥当性	3		
B 直接のサービスの相手方	3	<input type="checkbox"/> 特に見直しをせず事業を継続する	
B 事業内容の適切さ	2		
C 受益者負担の適切さ	3	<input type="checkbox"/> 継続的な事業実施を予定していたが中止した	
D 市民ニーズの把握	2		
E 事業の効果	3	<input type="checkbox"/> 当初予定通り事業を終了した	
E 成果指標の適切さ	3		
計画に対する貢献度	2		

総合評価	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">A : 達成</span> B : おおむね達成    C : 未達成
	<p>まちの魅力の向上を通じて市民満足度の向上や郷土愛の醸成を進めることを目的とした本事業は、市の財政面からは実施が難しい取組に対して、国の交付金を有効的に活用した事業であり、市のプロモーションを目的とした事業として、設定したKPIIについても目標値を上回るなど、一定の効果はあったと考える。</p> <p>一方で、市の財政負担はないものの、費用対効果の視点は重要である。今後も、本事業で構築したVRアプリのダウンロード数や市内鉄道駅の乗降客数などについて把握するとともに、一過性の取組とさせないためにも事業効果の検証を継続して実施していくべきである。</p> <p>また、本事業と設定されているKPIIの関連性が必ずしも明確でないといった意見については、今後の事業実施において留意されたい。</p> <p>開催したイベントには市内外から多くの参加者が見られたが、「事業自体を知らなかった。いつの間にか事業が終わっていた。なぜ下野谷をPRするのか。」といった声もあり、昨年度に実施した地方創生のための事業と同様に、告知方法については更なる改善が必要である。</p> <p>今後はNPOや市民団体、企業等との連携も考えられるため、行政が主体となるだけでなく民間活用を視野に、得られた成果をまちづくりに活かしつつ、持続可能で発展性のある取組となるよう事業展開されたい。</p>